

都会でも岩石や化石の観察はできます。デパートやホテルにある天然石の壁面や柱を観察するのです。たとえば、日本橋三越の壁には、アンモナイトやベレムナイト（中生代のイカの仲間）の化石を発見できます。かつては渋谷駅の壁面にもアンモナイトがありました。先日も新宿の高島屋の壁面に、美しい鉱物を発見しました。

その壁は大谷石できています。「おおたにいし」ではなく「おおやいし」と読みます。大谷石というのは、緑色凝灰岩（グリーン・タフ）の一種で、今から1000万年以上前に、火山砕屑物が海底に堆積してできたものと考えられています。「原料」はほとんど白っぽい火山灰や砂礫なので、成分（構成鉱物）も石英や斜長石が主で、岩質もザラザラしているものが多いです。決して美しい岩石ではなく、通常は鑑賞の対象とはなりません。ただ、石材としては極めて柔らかく、木工用ののこぎりでも切断可能なほどです。切断や整形などの加工が容易なことと、御影石（花崗岩）などと比較してずっと安価なことから、古くから古墳の玄室、民家の塀、蔵などの材として多用されてきました。

そんな大谷石が、高島屋の内装に使われていたのは意外でしたが、近年は防湿効果や音響効果も認められているのだそうです。しかしよく観察すると、ところどころ緑色の美しい結晶が含まれています。中には直径が3～4cmもあるものもあります。これが、大谷石（緑色凝灰岩）を緑色っぽく見せている鉱物の正体です。この鉱物は「緑泥石（りょくでいせき）chlorite」の結晶です。緑泥石は、凝灰岩に少量含まれる「輝石（きせき）」や「角閃石（かくせんせき）」などの有色造岩鉱物が熱水によって変質してできた「粘土鉱物」の一種です。大谷石の中にこれほど美しい結晶が見られるのは稀なことです。

（2025年5月下旬／新宿高島屋）

